

【事例紹介】

社会資本の質的向上等のための取組や様々な維持管理・更新の工夫事例

※今後の維持管理・更新にあたり参考となる事例を整理したものであり、必ずしも維持管理・更新として事業が行われていないものも含む。
また、地方公共団体の取組も含む。

橋梁の長寿命化の事例

適時適切な補修・補強により、80歳を超えても大きな損傷もなく使用

ばんだいばし

萬代橋(国道7号新潟市)

1929(昭和4)年開通:86歳



さいがわおおはし

犀川大橋(国道157号金沢市)

1924(大正13)年開通:91歳



賑わい創出の事例(河川)

隅田川(東京) 吾妻橋地区

コンクリートの直立堤防から隅田川の背後の建築等の市街地再開発や公園等の再整備と一体となった堤防の整備を耐震対策と合わせて実施

整備前

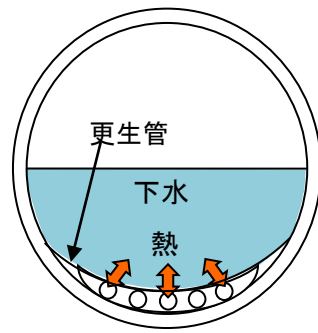
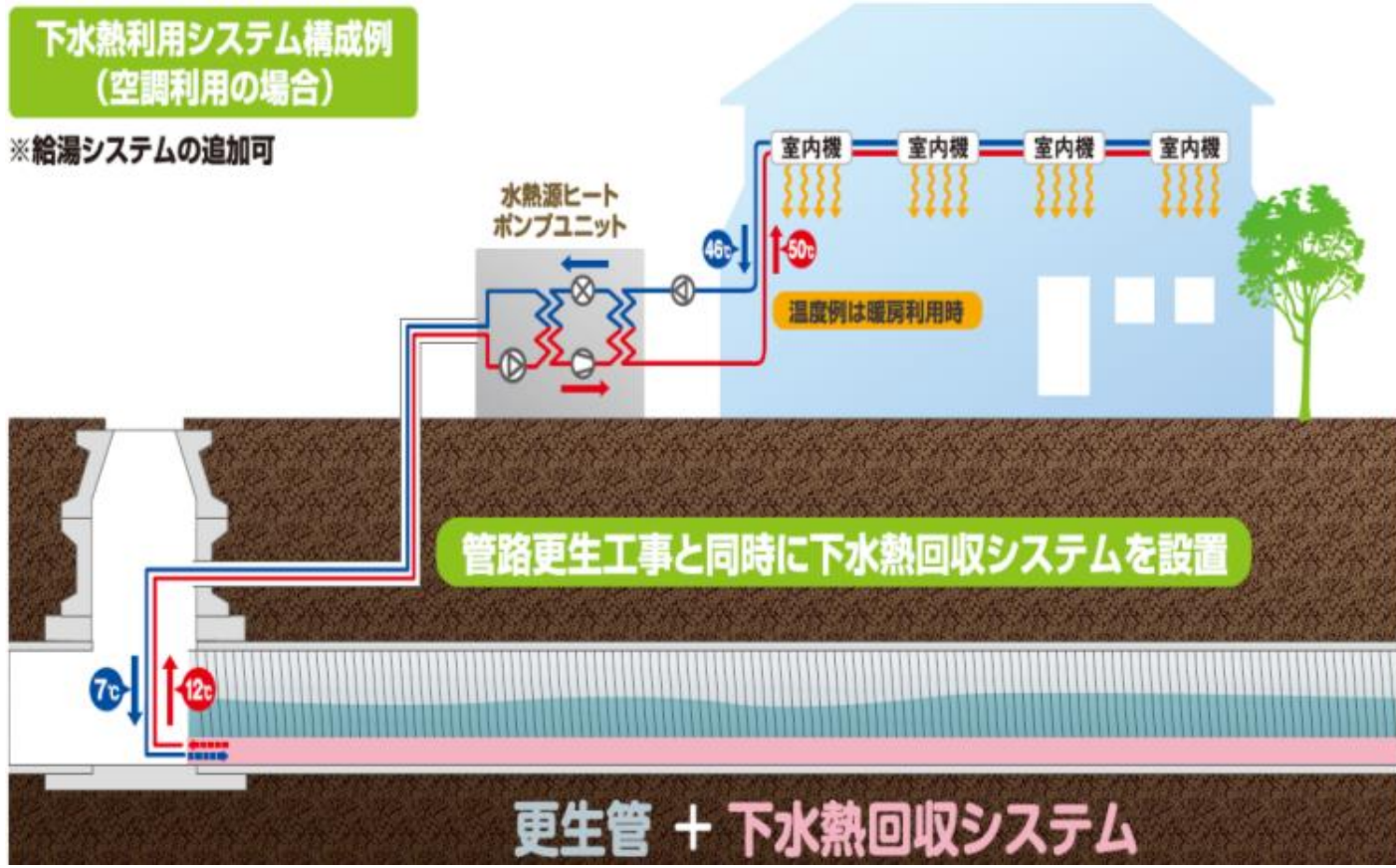


整備後



管更生工事とあわせて下水熱利用(下水道)

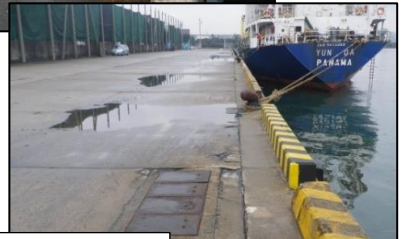
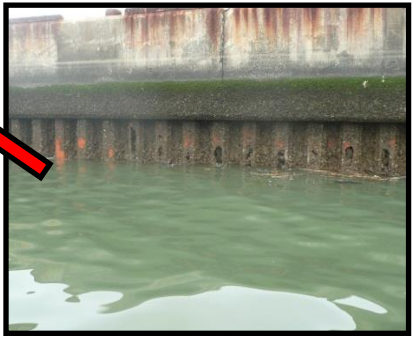
- ・下水管渠の管更生工事にあわせて、熱交換器を設置することによって、改築更新の機会をとらえた下水道機能の高度化(下水熱の有効利用)を図るとともに、コスト縮減と省エネ・CO2削減を実現。
- ・下水道革新的技術実証事業(B-DASHプロジェクト)において、平成24年度、「管路内設置型熱回収技術を用いた下水熱利用に関する実証事業」を採択



港湾機能の効率化の事例(港湾)

- ・コンテナ貨物、完成自動車、バルク貨物が混在していたところ、機能を再配置して集約化。
- ・既存岸壁の全延長を改良するよりも、ふ頭再編により、既存岸壁約2,100mを廃止・不荷役化し、250mの岸壁を新規投資することにより、投資コストを約43億円抑制するとともに、ストックを縮小することにより、将来の維持管理費も低減。

【事例：三河港(重要港湾：愛知県)】



不荷役化後の岸壁 (イメージ)

新規投資 岸壁250m整備 ≤ 既存岸壁約2,100m改良
 神野地区、船渡地区の再編により約43億円の縮減

社会的ニーズに対応した維持管理・更新の事例(公園)

○しんとみリフレッシュパーク(栃木県大田原市)

高齢化社会に対応した公園再整備事例。少子化で子供の利用が減少し、また施設が老朽化したことから、利用状況の変化を踏まえ、高齢者やハンディキャップのある利用者のリフレッシュ等の図れる公園づくりを目指し、医療関係者の指導等の下に、再整備を実施した。



○既成のリハビリ器具を置かず、身体を動かすための多様なベンチを設置し、「バランス」「筋力」「ストレッチ」「持久力」の運動が行えるものとした。

○植栽(バラ)による「リラックス」「リフレッシュ」「癒し」の効果を得られるものとした。



社会的ニーズに対応した維持管理・更新の事例(公営住宅)

○健軍くらしささえ愛工房 〈 熊本県営住宅:健軍団地(熊本県熊本市) 〉

※事業主体:熊本県

建替えとあわせて県営住宅1階に地域の福祉・交流拠点を整備。
NPOによる地域居住支援など、地域住民とのパートナーシップにより運営

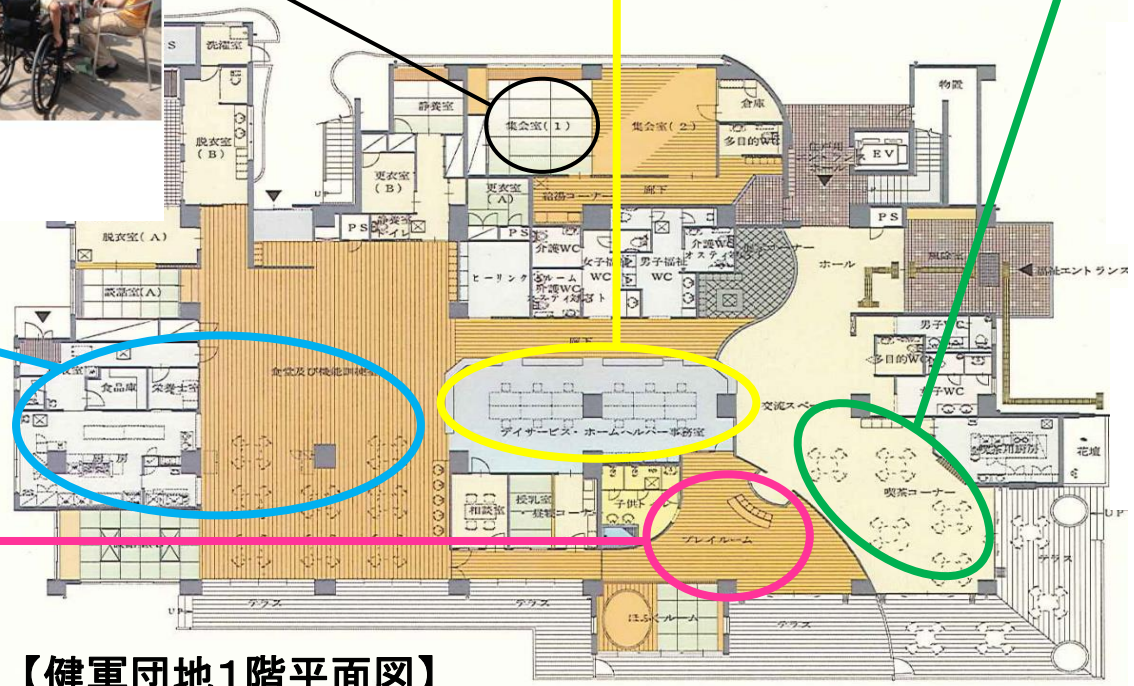


介護相談、生活相談、子育て相談等の総合的な相談窓口

障害者が働く喫茶・軽食サービス事業

高齢者のデイサービス・夜間一時預かり・配食サービス

子育て支援や子育て支援活動の実施



【健軍団地1階平面図】

社会的ニーズに対応した維持管理・更新の事例(官庁施設)

○中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟(東京都千代田区)

東京大空襲でレンガ壁を残して焼失したが、改修して法務省本館として40年以上使用。本格的なドイツ・ネオバロック様式の外観に特徴があり、都市の景観上貴重で歴史的価値が高く、築後99年目に学識経験者の監修のもと創建時の外観を復原する工事を実施。復原工事では、コストを考慮しつつ、当時の技術を駆使して耐久性の確保を図る改修を実施。

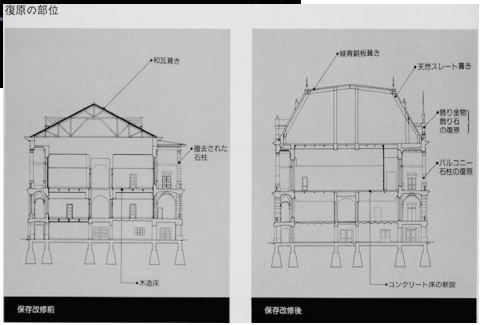


外観

本建物は、明治28年(1895年)に旧司法省庁舎として完成した。

大正12年(1923年)の関東大震災では、ほとんど被害を受けなかったが、昭和20年(1945年)の東京大空襲により、レンガ壁を残して焼失した。そのため、屋根を天然スレートから瓦にするなどの改修工事が行われ、昭和25年(1950年)法務省本館として利用されるようになった。

平成6年(1994年)に、村松貞次郎、堀内正昭両氏の監修のもと、外観が創建時の姿に復原され、その際、木造の床を撤去して耐久性のあるコンクリートスラブを新設し、耐震性、防火性の向上を図るとともに、現代的な設備を導入し、執務環境の向上を図っている。



復原の部位